

「緑の空間プロデューサー」という肩書きは、私の携わっている仕事を説明しようと思っただけです。私の仕事では、造園からショッパやカフェなどの商業施設の内装・ディスプレイまで幅広く手がけているため、空間を創る仕事を表す「空間プロデューサー」に、生花や樹木、造花や人工観葉植物を使っていることを表す「緑の」を付け、多岐にわたる仕事内容を表現しています。

緑が豊かな東京都の高尾周辺で育った私は、花や木が好きで、小学校の頃は公園で木登りをしたりし

緑のエッセー



て遊んでいました。また、洋裁をしていた祖母の影響で幼い頃からデザイナーに憧れていました。しかし、デザイナーに必要な発想力が自分にあるかどうか自信がなく、進学を考える度に、インテリアやファッションの専門学校に進むか、普通の学校に進むかで悩み、結局普通の学校を選んでいました。

ところが理科科目が好きで進んだ日本大学生物資源科学部で緑地設計デザインという授業に出会い、好きな植物とデザインの二つが結びつくことに驚くとともに、憧れていたデザイナーへの道が開け

たと感じ、造園緑地学を専攻分野に選びました。大学でチェーンソーを使ったり、泥まみれになったりしていた頃、祖母の懇意にしていた呉服屋さんの勧めで出た「東京きもの女王コンテスト」で女王に選ばれ、1年間きもの女王として活動することになりました。この仕事のご縁で、江戸時代から代々京都で庭造りをされている11代目小川治兵衛おがわじへいさんに出会い、日本庭園の魅力を教えて頂きました。また、時代の先端で活躍されているインテリアデザイナの方々や、現在の私の師匠など、様々な本当

に素晴らしい出会いがありました。そこで感じたのは周囲の方々の豊かな感性です。皆さんユニークな人生経験をお持ちになっていて、私も感性を磨くために面白い経験をする必要があるのではないかと考えさせられました。

そこで、日本文化をはじめ、「内面から美しくなること」を学べ、様々な貴重な経験ができるミス日本コンテストを知り応募しました。ファイナリストに選考され、半年間たくさん自分と向き合い、涙もたくさん流しましたが、仲間と切磋琢磨し必死

に勉強してコンテストに挑んだところ、グランプリに選んで頂くことができました。ミス日本として活動した1年間では、造園を勉強していたこともあって、全国都市緑化フェアでお庭を作らせて頂いたり、ガーデンウエディングがテーマのウエディングショーの総合プロデューサーまで任せて頂けたりと、本当に貴重な経験をさせて頂きました。

将来は、ミス日本として活動している期間中に開催が決まった東京オリンピックの会場で緑の空間をプロデューズしたいと思っています。世界の方々に

●プロフィール
平成2年 東京都生まれ
平成23年度東京きもの女王
平成25年ミス日本グランプリ
大学では造園緑地学を専攻、緑地設計デザインを学び、平成25年の卒業後は緑地空間プロデューサーとして活動。
Jaa感謝祭「いやしの祭典2013」花と香るアロマWeddingのモデル及び総合プロデューサー、第30回全国都市緑化とっとりフェア「水と緑のオアシスとっとり2013」の区画庭デザイン等を行う。

おもてなしするには、日本の素敵な文化を象徴している日本庭園が一番ふさわしいのではないのでしょうか。

今から会場に大きな日本庭園を造ることを企画するのは難しいかもしれませんが、施設のエンターテインメントや選手村のエレベーターホール、会場の一角などの小さな空間でもいいので、日本庭園のテイストを取り入れたデザインを提案することができればと願っています。

写真提供：ミス日本コンテスト事務局